



災害とジェンダー



地震、豪雨による土砂崩れ、河川の決壊と、災害は突然に、誰にでも襲いかかります。でも、その災害が人々に与える影響は、誰にも同じではありません。

災害の混乱の中では、弱い立場にある人々や声をあげにくい人々に、支援が届きにくいことがあります。「皆平等に同じ支援」では必要な支援が受けられない人をつくりだす恐れがあります。災害現場ではジェンダーの視点が大切なことを、多くの人が感じています。

災害時のジェンダーの視点とは、男女間の差異だけでなく、一人ひとりが性別、国籍、年齢、階級、障害の有無などの多様性を持つ



存在なのだと認識し、それらに十分配慮する視点のことを指します。

困りごととは人それぞれ!

女性・男性・LGBT等

妊婦

単身者

外国人

高齢者

障害者

DV 被害者

非常用

練馬区の避難拠点

災害時の避難所には、地域で被災した人や、被災するおそれのある人などが、さまざまな事情を抱えて集まってきます。年齢や性別、障害、乳幼児や妊産婦など、自分や家族が抱える状況も違います。このため、避難所ではさまざまな問題が生じてきました。

《西日本豪雨（岡山県倉敷市真備町）での避難者の声》

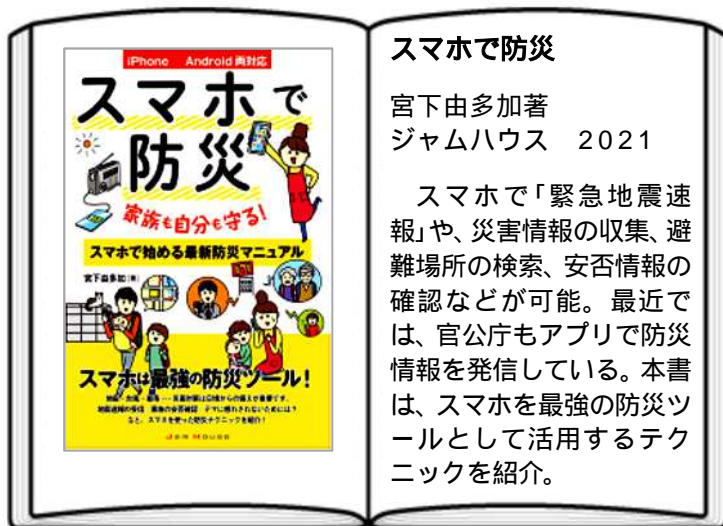
女性専用の物干し場では、目隠しのためブルーシートで覆われ、蒸し風呂状態だったため乾かなかった避難所には授乳や着替えをするための場所がなく、人目を気にしながら着替えをしなければならなかったオープンスペースで女性用の生理用品を男性が配布する等、物資を受け取りにくい状況があった



練馬区では、全区立小中学校を避難拠点としています。避難拠点では、過去の災害からの教訓を学び、女性の視点に立った避難スペースの設置（女性専用更衣室、授乳室・おむつ交換場所、女性専用物干し場所等）について対策してきました。今後も、ジェンダーの視点を取り入れ、安全で安心できる避難拠点運営が出来るよう、避難拠点運営連絡会、学校、区の三者で協力し検討して参ります。

朝方におきた阪神淡路大震災。出勤前の入浴中だった女性が、寒い浴室に長時間閉じ込められ救助を待ちましたが、やっと救助が来た時に助けを呼ぶのをためらったといいます。自分が裸だったからです。お風呂場にも防災が必要です。着替えやバスタオル、スリッパ等、手に取れる場所に準備を。

災害はいつ来るかわかりません。地震や豪雨などの自然災害を人間の力でくい止めることはできませんが、災害による被害を減らすための備えはできます。命を守るために。



スマホで防災

宮下由多加著
ジャムハウス 2021

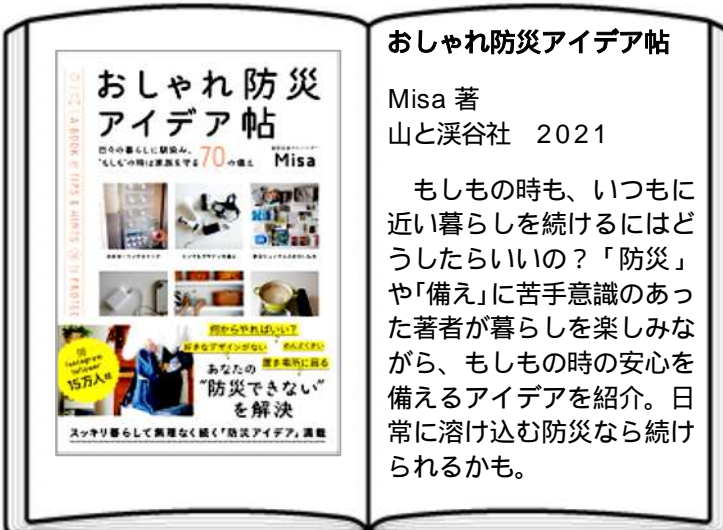
スマホで「緊急地震速報」や、災害情報の収集、避難場所の検索、安否情報の確認などが可能。最近では、官公庁もアプリで防災情報を発信している。本書は、スマホを最強の防災ツールとして活用するテクニックを紹介。



おうち避難のための
マンガ防災図鑑

草野かおる著
飛鳥新社 2021

在宅避難をする場合を想定して、マンガ形式で分かりやすく、具体的かつ実践的なノウハウが書かれている。停電の備え、断水の備え、非常食の備え、100均グッズでできる防災のアイデアなど、手に置きたくなる1冊。



おしゃれ防災アイデア帖

Misa 著
山と溪谷社 2021

もしもの時も、いつもに近い暮らしを続けるにはどうしたらいいの？「防災」や「備え」に苦手意識のあった著者が暮らしを楽しみながら、もしもの時の安心を備えるアイデアを紹介。日常に溶け込む防災なら続けられるかも。

練馬区で行われている
防災講座



ねりま防災カレッジ

地震災害をはじめとした防災対策を、詳しく学ぶために、様々な講座を開催しています。開催日や申込方法など、詳しくは区ホームページ、区報などでお知らせします。

- 自助講座
- 女性防災リーダー育成講座
- 乳幼児の保護者向け防災講習会
- 小学生向け講座
- 中学生向け講座
- 食と防災 ほか

こんな講座があります

災害と女性講座

- 災害時！あなたとあなたの大切なペットを守るために
- 助かるためのカギ
～防災情報のつかみ方と使い方～
- 赤ちゃんとママパパ防災講座
～何が心配？何が必要？～
- ライフラインがダウン
～今、避難を考える～
- 大災害のリアルと防災意識の再チェック
- 在宅避難を考える

こんな防災講座を行いました





ジェンダーのとびらを
開こう



村田晶子〔ほか〕著
大和書房 2022

「男らしさ」「女らしさ」とは？ジェンダーをめぐる様々な問題について、10代の読者にもわかりやすく探求していく。ジェンダーについて考えることで見えてくる「自分らしく生きる」ことについて考えたい。

家事は大変って気づきましたか？



阿古真理著
亜紀書房 2022

家事が大好きな女性もいれば苦手な女性もいる。子育てに向いていないと感じる人もいる。それらは全て「女性の領域」だと思う男性もいる。なぜ、家事は女性の仕事だったのか。人々の家事に対する意識の変遷を読み解く。

人生最大の失敗



野原広子著
オーバーラップ 2022

「人生最大の失敗は結婚」。夫が他の女性と電話で話しているのを聞いてしまったエリコは、50歳を目前にして離婚する。敗北感や寂しさにおそわれながらも、エリコは自分にとっての「人生最大の失敗」とは何だったのかを考える。そして…。

死に方がわからない



門賀美央子著
双葉社 2022

独身、子なし、親兄弟なし。現在生きている三親等以内は全員年上。死に際を見てくれるような家族親族はいない。「人様に迷惑をかけないで死ぬ」ために、どんな準備が必要なのかかわからない著者が、死に方を探す旅に出た。その結果は？

分類	書名	著者名	発行
019	本を読んだら散歩に行こう	村井理子	集英社
146	うつ感情のトリセツ	中島輝	きずな出版
280	だから私はここにいる	アンナ・ラッセル	フィルムアート
361	ポリティカル・コレクティブネスからどこへ	清水晶子〔ほか〕	有斐閣
367.22	ママにはならないことにしました	チェ・ジウン	晶文社
367.25	二重に差別される女たち	ミッキー・ケンドール	DU BOOKS
369	凜として灯る	荒井裕樹	現代書館
493	統合失調症の一族	ロバート・コルカー	早川書房
498	小さな町の精神科の名医が教えるメンタルを強くする食習慣	飯塚浩	アチーブメント
159	ポンコツなわたしで、生きていく。	いしかわゆき	技術評論社
366	新しい労働世界とジェンダー平等	浅倉むつ子	かもがわ出版
367.1	男がづらい！	杉田俊介	ワニブックス
367.1	エトセラ VOL.8	鈴木みのり、和田彩花	エトセラブック
367.1	やわらかいフェミニズム	河野貴代美	三一書房
367.4	夫婦同姓、別姓をえらべる社会へ	榊原富士子、寺原真希子	恒春閣
495	大丈夫だよ 女性ホルモンと人生のお話 111	高尾美穂	講談社
498	秘闘	岡田晴恵	新潮社
914	パリの空の下で、息子とぼくの3000日	辻仁成	マガジンハウス
おち	わたしたち	落合恵子	河出書房新社
かじ	空を駆ける	梶ようこ	集英社

にゅーすBOX

都のパートナーシップ宣誓制度 開始

パートナーシップ関係にある性的マイノリティのカップルからの宣誓・届出を、都が受理したことを証明する「東京都パートナーシップ宣誓制度」が11月1日から始まった。都内在住、在勤、在学の18歳以上が対象。法的効果はないが性的マイノリティの人達の悩みを軽減する狙いがある。証明書の発行により都営住宅の入居申し込みや都立霊園使用申請などが可能になる。

「内密出産」ガイドラインを初めて公表

妊婦が病院の担当者だけに身元を明かして出産する「内密出産」について、国は初めてガイドラインを公表した。母親の身元に関する情報について出産場所となった医療機関が長期間管理することが望ましいとしたが、情報を管理する公的機関の創設などは盛り込まれなかった。最も尊重されるべきは「母子の生命・健康の確保」だとしている。

都立高校 入試願書の性別欄廃止

東京都教育委員会は、令和5年春の都立高校入試から入学願書の性別欄を削除することを決めた。内閣府による調査によれば、東京以外の公立高校入試願書からはすでに性別欄をなくしている。東京では男女別定員を設けていたため「一定の必要性があった」という。男女別定員に関しても、「ジェンダー平等に反する」等の指摘を受けたため、早ければ令和6年実施の入試で廃止予定。

過労死等防止対策白書 令和4年版

過労死等防止対策白書(令和4年版)によると、テレワークの頻度が多い人ほど睡眠時間が長く、うつ傾向や不安が少ないという調査結果が明らかになった。白書では精神障害の労災の原因も分析しており、男女で大きな差があることが分かった。男性は恒常的な長時間労働や仕事内容。女性は、「セクハラ」と「悲惨な事故や災害の体験や目撃だった」。

都、先進不妊治療助成

東京都は保険適用外となっている先進的な不妊治療に対し、15万円を上限に費用の7割を独自助成する。4月以降に開始した先進医療も遡って助成対象とする。治療開始時点で妻の年齢が40歳未満であれば6回、43歳未満であれば3回を上限に助成する。令和5年1月より申請受け付け開始。

練馬区 不登校に関する実態調査

練馬区教育委員会が不登校を経験した区立中学校の卒業生等に行った全国自治体に例を見ない体系的な調査。不登校のきっかけは「学校やクラスに合わなかった」「友達のこと」など約9割が学校生活に要因があり、約7割が当時、学習面に不安があったと回答。現在の生活は、約8割が当時より良くなったと回答し、適切な支援が、生活状況の改善につながっていることがわかった。

性被害相談 増加

全国に整備された被害者の総合的な支援窓口への令和3年度の相談は5万8,771件と集計を始めた令和元年に比べ4割増加。それでも言い出せない人は多く、相談は被害の氷山の一角にすぎないという。現状は電話やメール、対面による受け付けが中心。被害者の大半を20代以下が占めることから、SNSへの対応など、より相談しやすい多様な手段の確保が課題となる。

内閣府 アンコンシャス・バイアス 調査

内閣府男女共同参画局が行った調査で、性別による「無意識の思い込み」(アンコンシャス・バイアス)を持つのは、男性が23.6%で女性の17.7%を上回った。最も思い込みが多かった項目は男女とも「男性は仕事をして家計を支えるべきだ」だった。一方、性別に基づく役割の思い込みを実際に言われたり感じたりした経験は、女性が26.5%で男性の20.7%を上回った。女性は「家事・育児は女性がするべきだ」が40.8%で最も多く、男性は「デートや食事のお金は男性が負担するべきだ」が29.4%で最も多かった。男女共同参画局は、「男性が実際に言われたり感じたりした経験が少ないため、伝統的な価値観に自身がとらわれていることに気づいていない可能性がうかがわれる」と分析している。

「いじめ」「暴力」 過去最多

文部科学省の「問題行動・不登校調査」において、全国の小学校で令和3年度に認知したいじめが約50万件、暴力行為は約4万8,000件で、いずれも過去最多だったことが分かった。同省は、コロナによるストレスを強く受けた影響とみている。

高学歴の女性 子どもの数 増加

国立社会保障・人口問題研究所の令和3年出生動向基本調査によると、昨年45~49歳の妻が大卒以上の夫婦の子ども数が前回調査の1.66人から1.74人と19年ぶりに上昇した。同研究所は育児と仕事の両立支援の影響と分析。ただ、出生動向基本調査では、中高卒女性が産む子供の数は減少を続けているため、同研究所員は、大卒と中高卒の女性が産む子どもの数が逆転する可能性を指摘する。

米知事選 女性多数

米中間選挙と同時に実施された36州の知事選において、女性当選者は過去最多の12人(民主党8人、共和党4人)となり、これまで最多だった2004年の9人を上回った。来年には全米50州の女性知事比率は24%となる見通し。各州の独立性が高い米国で知事は注目を集める存在であり、様々な選挙で女性候補者が増える可能性があるほか、今後の大統領選の行方にも影響を与えるとの見方もある。